

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名

〈小・23〉

いわき市立小玉小学校

〈実施日〉

平成 27 年 10 月 23 日 (金)

〈実践教科等〉

※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。

1 理科 (2) 学級活動 3 総合的な学習の時間 (4) その他 (現職教育)

〈実践内容〉

○いわき明星大学教養学部特任教授石川哲夫先生による放射線教室と教員研修

1 放射線教室

(1) 対象 5・6年生児童 53名

- (2) 実施内容
- ①放射線ってなんだろう
 - ②放射性物質と放射能、放射線の違い
 - ③放射線の利用
 - ④放射線から身を守る方法
 - ⑤霧箱観察 など

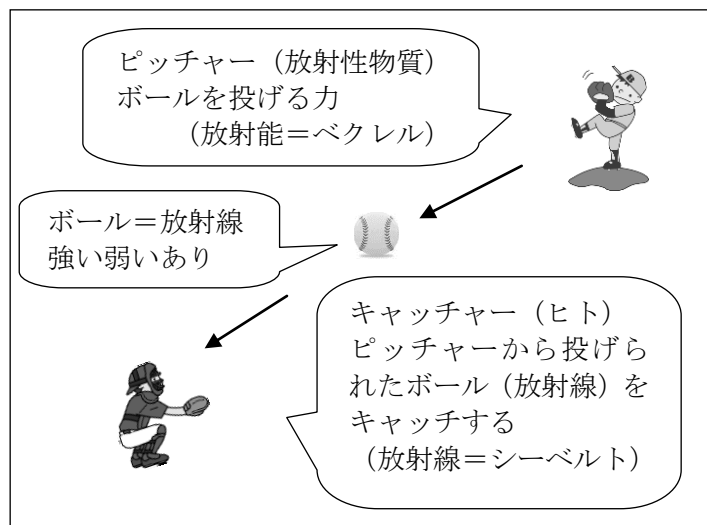
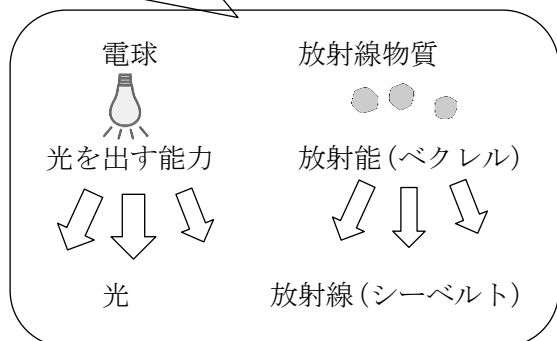


2 教員研修

- (1) 実施内容
- ①東京電力第一原発事故概要 (IAEA報告書)
 - ②霧箱装置の仕組み・観察
 - ③放射線の基礎知識
 - ④発達段階に応じた放射線教育の実際
 - ⑤今後の放射線教育 など



5・6年生で放射性物質・放射能・放射線の違いを言えるように



〈成果〉

- ・放射性物質、放射能、放射線の違いをロールプレイング(野球)で示していただいたので、児童にも分かりやすかった。
- ・空気中や身近な食品からも多少の差はあるが、放射線は出ていること、放射線も生活の中で利用されていること、浴びる強さや量が問題だということが理解できた。
- ・霧箱で実際に放射線が飛ぶ様子を観察し、放射線を身近に感じる事ができた。

〈課題〉

- ・教員研修の中で、体験活動の重要性「聞いたことは忘れる、見たことは覚える、体験したことは理解する」という話があった。繰り返しにはなるが、何度も指導していくことが必要だと感じた。
- ・外部講師による具体物の提示と話は効果がある。指導する側としても、児童にも、専門的な知識や新しい情報を得る機会をどうつくるかが課題である。

資料作成担当者職 (教諭) 氏名 (酒井真澄)

学校電話番号 (83-0027)

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日（月）までに電子メールで送信してください。
（送信先：kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp）